

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	帝京大学
設置者名	学校法人 帝京大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	日本文学科	夜・ 通信	8	38	60	106	13	
	史学科	夜・ 通信	8	38	36	82	13	
	社会学科	夜・ 通信	8	38	20	66	13	
	心理学科	夜・ 通信	8	38	54	100	13	
外国語学部	外国語学科	夜・ 通信	8	38	27	73	13	
	国際日本学科	夜・ 通信	8	38	28	74	13	
教育学部	教育文化学科	夜・ 通信	8	38	62	108	13	
	初等教育学科 (初等教育コース)	夜・ 通信	8	38	116	162	13	
	初等教育学科 (こども教育コース)	夜・ 通信	8	38	83	129	13	
経済学部	経済学科	夜・ 通信	8	38	150	196	13	
	国際経済学科	夜・ 通信	8	38	92	138	13	
	地域経済学科	夜・ 通信	8	0	113	121	13	
	経営学科	夜・ 通信	8	38	194	240	13	
	観光経営学科	夜・ 通信	8	38	150	196	13	
法学部	法律学科	夜・ 通信	8	38	110	156	13	
	政治学科	夜・ 通信	8	38	96	142	13	

医学部	医学科	夜・通信	8	0	205.4	213.4	19	
薬学部	薬学科	夜・通信	8	0	127.5	135.5	19	
理工学部	総合理工学科	夜・通信	8	15	48	71	13	
	機械・精密システム工学科	夜・通信	8	26	53	87	13	
	航空宇宙工学科	夜・通信	8	26	49	83	13	
	情報電子工学科	夜・通信	8	26	68	102	13	
	バイオサイエンス学科	夜・通信	8	26	39	73	13	
	データサイエンス学科	夜・通信	8	0	62	70	13	
	情報科学科	夜・通信	0	0	46	46	13	
医療技術学部	視能矯正学科	夜・通信	8	32	100	140	13	
	看護学科	夜・通信	8	32	129	169	13	
	診療放射線学科	夜・通信	8	32	112	152	13	
	臨床検査学科	夜・通信	8	32	109	149	13	
	スポーツ医療学科 (救急救命士コース)	夜・通信	8	32	98	138	13	
	スポーツ医療学科 (健康スポーツコース)	夜・通信	8	0	150	158	13	
	スポーツ医療学科 (トップアスリートコース)	夜・通信	8	0	150	158	13	
	柔道整復学科	夜・通信	8	0	141	149	13	
福岡医療技術学部	理学療法学科	夜・通信	8	12	111	131	13	
	作業療法学科	夜・通信	8	12	108	128	13	
	看護学科	夜・通信	8	2	143	153	13	
	診療放射線学科	夜・通信	8	2	95	105	13	
	医療技術学科 (救急救命士コース)	夜・通信	8	8	98	114	13	
	医療技術学科 (臨床工学コース)	夜・通信	8	8	71	87	13	
(備考)								
理工学部(機械・精密システム工学科、航空宇宙工学科、情報電子工学科、バイオサ								

イエンス学科) は 2025 年度以降募集停止。理工学部 (総合理工学科・データサイエンス学科) は、2025 年度新設。2028 年度に完成年度を迎える。
--

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにより、公表している。

https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	帝京大学
設置者名	学校法人 帝京大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.teikyo-u.ac.jp/university/basic_info

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤 の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 役員	2025 年 5 月 30 日か ら選任後 4 年以内に 終了する会計年度の うち最終のものに関 する定時評議員会の 終結の時まで	企業での経験や知 見を本学運営に役 立てる
非常勤	株式会社 役員	2025 年 5 月 30 日か ら選任後 4 年以内に 終了する会計年度の うち最終のものに関 する定時評議員会の 終結の時まで	企業での経験や知 見を本学運営に役 立てる
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	帝京大学
設置者名	学校法人 帝京大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

・授業計画書(シラバス)の作成過程

授業を担当する教員にはシラバス作成のガイドラインを配布しており、予めシラバス作成の手順について周知している。次年度の担当科目が決定次第、教員はガイドラインに従いシラバスの原稿を作成し、各学部の教務担当事務へ提出。記載内容について第3者のチェックを受け、必要に応じて加筆修正を行い、完成する。

・主な記載内容

- ① 授業の概要…授業の全体を把握できるようにするとともに、授業の趣旨、学びの方向性を記載する。学生が、学ぶ意識を理解し、学修への動機づけを高めることを目指す。
- ② 授業の到達目標…当該科目が、学部等がディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果のうちのどの部分を担っているかに留意し、「〇〇できる」等の表現にて示す。
また、到達度を成績評価に結びつけられるよう、観察可能な具体的内容を記載し、学生にわかり易いように一つの文章に対し一つの到達目標とする。
- ③ 成績評価の方法および基準…単位認定の判断材料となるレポート課題、小テスト、試験等の評価の割合を%で明記する。出席点は含めない。評価にあたり、到達目標に掲げる能力の達成度を判定できる評価方法となっているかに留意する。また、評価基準は測定可能なものとし、採点根拠が明確となるようにする。なお、成績評価の基準は、全ての科目において同一にS・A・B・C・Dで表し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とするため、授業科目ごとのシラバスには掲載していない。
- ④ 授業形態…講義、演習、実験、実習、実技の別を記載。複数の組み合わせの場合は、そのすべてを記載。
- ⑤ 各回の授業内容(年間の授業の計画)…学生の予習等の参考となるように、各回の具体的な授業内容を記載する。
- ⑥ 教科書・参考資料…授業で使用し、学生が購入することが必要なもののみ記載。
- ⑦ 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間…学生の主体的な学修を促すため、予習・復習について具体的な内容とかかる時間を記載する。
- ⑧ その他履修上の注意事項…学生が授業に臨む態度、学生の責任について記載。また、当該科目履修の前提となる科目や、今後履修すべき科目について記載。
- ⑨ 実務経験のある教員による授業…担当教員が実務経験を有しており、担当授業科目が実務経験に関連する場合は、実務経験を基にどのような授業を行うかを記載。

・授業計画書の作成・公表時期

前年度の12月ごろより、各教員に原稿の作成を依頼し、上記の作成過程を経て、3

月末までにホームページ上に公表し、予め学生に対して周知する。				
授業計画書の公表方法		ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose		
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。				
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)				
・各授業科目の授業計画書（シラバス）への記載等において、学生に対し予め周知された成績評価の方法（筆記試験、実技試験、レポート課題、小テスト等）および基準（S・A・B・Cは合格、Dは不合格）により、厳格かつ適正に学修成果を評価し、合格者に対し単位の授与を実施している。				
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。				
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)				
・学修の成果を客観的な数値で評価する成績評価制度として、GPA 制度を導入している。				
・客観的な指標の内容				
区分	評価	GP	成績評価基準	評価内容
合格	S	4.0	90 点以上	特に優れた成績
	A	3.0	80 点台	優れた成績
	B	2.0	70 点台	妥当と認められる成績
	C	1.0	60 点台	合格と認められる最低限の成績
不合格	D	0.0	60 点未満	合格と認められる最低限の成績に達していない
・ GPA の算出方法				
$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{卒業単位数における総履修登録単位数 (D の単位を含む)}}$				
・ 予め設定した上記の算出方法をホームページ等により学生に周知し、各学生の履修科目の成績に基づき算出している。				
客観的な指標の算出方法の公表方法		ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose		
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。				
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)				
・ 本学の卒業の認定に関する方針は、学部・学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質を記載したものと捉え、各学部・学科で定めた教育目的に則し、養成すべき人材像を記載するとともに、学生の立場から行動目標を定義し、				

簡素な文章で箇条書きしている。この記載により、学部・学科が保証する最低限の学修成果を明確にしている。また、大学、各学部、学科の卒業の認定に関する方針は、ホームページ上において公表している。

なお、各学部・学科における卒業の認定に関する方針に基づき、筆記試験、実技試験、レポート課題、小テスト等の適切な方法により学生の学修成果を評価し、卒業に必要な修得単位数を満たした者について、卒業認定を適切に実施している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページにより、公表している。
<https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	帝京大学
設置者名	学校法人 帝京大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.teikyo-u.ac.jp/university/basic_info/finance
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページにて公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/certification
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページにて公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/certification
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose） （概要） 文学部は、建学の精神に則り、学問の原点に立ち返ると同時にさまざまな職業の実践にも応用の利く、知の方法としての教養を育む。教育指針の一つである「国際性」、「開放性」を通して、専門的知識と幅広い教養を持つ人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy） （概要） 文学部は、学問の原点に立ち返ると同時にさまざまな職業の実践にも応用の利く、専門性と幅広い教養を持つ人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。 1. 広範で多様な人文科学領域の基礎的知識を修得し、豊かな人間性と倫理性を持って問題発見と問題解決の能力を有する。 2. 各学科が求める専門的知識と幅広い教養を身につけ、現代社会が抱える諸課題に多角的な観点からの確に対応できる。 3. 国際的視野に立ち、必要な知識・技術を偏ることなく学び、豊かな創造力と表現力を持って社会の発展に貢献ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy） （概要） 学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、文学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。 1. 専門科目を学ぶための基礎科目を 1 年次に必修科目として配置し、学年進行に合わせて段階的な学習の積み上げを可能とする科目構成を編成する。 2. プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を養うとともに、多様で複雑な諸課題に取り組む姿勢の醸成に向けて「ヒューマニティーズ入門」、「基礎演習」、「演習」などの教育科目を設置する。 3. 教育指針である「国際性」「開放性」を重視し、社会で通用する実践的な科目を編成する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy） （概要） 文学部は、学問の原点に立ち返ると同時にさまざまな職業の実践にも応用の利く、専門性と幅広い教養を持つ人材の育成を目指しています。 この教育目的を達成するため、高等学校等における学修や活動を通じて、次のような能力・素養・意欲を備えた入学者を求めています。 求める学生像 （知識・技能） 1. 専門的知識と幅広い教養の修得に必要な基礎学力としての知識・技能を有している。 （思考力・判断力・表現力） 2. 豊かさや幸せなど私たちが感じることからについて、自らの力で問を立て考える意欲がある。

3. さまざまな出来事に関心を持ち、豊かな想像力・表現力を通して社会の発展に貢献する意欲を持つ。 (主体性・多様性・協働性) 4. 他者との討議を通して、自ら立てた問を多面的に考察する意欲がある。

学部等名 外国語学部
教育研究上の目的 (公表方法: ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose)
(概要) 外国語学部は、建学の精神に則り、専攻する言語を修得し、当該言語を使用する地域の文化・歴史・社会に対する学識を深め、グローバル共生の基礎となる異文化理解能力を身につけ、国際社会に貢献できるグローバル・シチズンを育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy)
(概要) 外国語学部は、建学の精神および教育指針である「実学・国際性・開放性」に適い、国際社会がもつ様々な課題の解決に貢献できるグローバル・シチズンの育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。 1. 複数の言語による実践的言語コミュニケーション能力を有する。 2. 異文化に対する幅広い知識と体験に基づく異文化接触によって培われた、実践的異文化理解能力を有する。 3. 世界各地の文化・歴史・社会に関する知識を基に、国際社会で貢献できる幅広い教養と知識をもち、それを活用して国際社会全体やそれぞれの地域社会が直面するさまざまな課題に取り組むことが出来る能力を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy)
(概要) 学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、外国語学部は、以下のような方針でカリキュラムを編成する。 1. 専攻する言語の実践的な言語コミュニケーション能力を高めるため、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を教える科目をバランスよく配置する。 2. 言語コミュニケーション能力に加え、異文化理解能力を高めるため、専攻する言語を使用する地域へ赴き、実践的かつ体験的な学修を行う科目を配置する。 3. 専攻する言語が使用される国や地域への理解を深めるため、その国や地域の文化・歴史・社会を学ぶ科目を設置する。 4. 国際社会や地域社会が直面する課題に取り組む態度と能力を高めるため、演習科目や実践的な学修を行う科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy)
(概要) 外国語学部は、外国語の修得と異文化理解を介して、グローバル化する今日の国際社会が生み出す諸問題に対処するとともに、日本を世界に向けて発信することができる人材の育成を目指します。 この教育目的を達成するため、高等学校等における学修や活動を通じて、次のような能力・素養・意欲を備えた入学者を求めています。 求める学生像 (知識・技能) 1. 入学後の学修に必要な基礎学力と学修意欲を有する。

(思考力・判断力・表現力) 2. 未知なる世界に好奇心を抱き、積極的に関わり、貢献していく意志を有する。 (主体性・多様性・協働性) 3. 人とのコミュニケーションを楽しむことができる態度と能力を有し、他者と協働して学ぶ意欲を有する。

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose） （概要） 教育学部は、本学の建学精神に則り、教育と社会に関する諸科学の基礎的理論、学校・保育所等における教育や保育及び生涯学習に係る知識・技能を歴史的、実践的、多面的に学習し、広く教育についての理解と認識を深めることを目指す。そして、豊かな人間性を備え、時代の動向を的確に捉え、社会の進展に寄与する人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy） （概要） 教育学部は、教育が個人及び国家・社会の形成者の育成を図る基盤であることを踏まえ、教育の理論と実践に関する知見と能力を備えた人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。 1. 教育と社会に関する諸課題への関心を持ち、専攻した教育的専門知識や技能を生かし、その理解と解決に努めようとする態度を身につけている。 2. 教育に関わる職業や社会生活に必要な人間関係・社会形成能力及び、使命感・責任感等を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy） （概要） 学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、教育学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。 1. 教育と社会に関する諸課題を広い視野から学修できるようにするため、初年次の必修科目「教育学入門Ⅰ・Ⅱ」をはじめ、教育や人間、子どもへの理解を深めるための専門科目を配置する。 2. 将来の職業や資格取得を視野に入れ、学校教育や生涯学習・社会教育に関わる知識・技能を実践的に学修する資格課程科目、臨床系科目や現代教育課題系科目等の選択必修・選択科目を配置する。 3. 国際化や情報化等の社会の進展に即し、教育・保育・その他の職業分野で責任ある役割を果たすために必要な知識と技能を身に付ける実践的な専門科目を配置する。 4. 教育者や社会人、職業人として主体的に学び続ける上での基礎を培うために、探究的な学修を行う「ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」、「教育研究リテラシーⅠ・Ⅱ」、「教育学演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy） （概要） 教育学部は、教育諸科学の理論と教育実践との融合を図り、広く豊かな教養と視野および専門的知識・技能を育成するとともに、現在、教育の現場から求められている「生きる力」をはぐくみ「生涯にわたり学び続けることのできる姿勢」を涵養するための教育研究活動を通して、主に初等・中等教育に携わる人材及び幼児教育や保育などに携わる人材、並びに社会教育・生涯学習に携わる人材の育成を目指しています。

この教育目的を達成するため、高等学校等における学修や活動を通じて、次のような能力・素養・意欲を備えた入学者を求めています。

求める学生像

(知識・技能)

1. 高等学校までの全ての教科等・科目での基礎的な学力を身につけている。
2. 教育現象や教育時事等に関心を持ち、様々な情報チャンネルを駆使して、自ら探求できる資質・能力を有する。

(思考力・判断力・表現力)

3. 教育現象などに対して、課題を発見し、自ら探求しつつ学び、自ら考え、その考えを適切に表現できる。
4. 学内及び地域等で多様な活動を展開することによって、自ら「学ぶ」ための資質・能力の向上に努めることができる。

(主体性・多様性・協働性)

5. 大学内外で積極的に多様な教育課題を自ら発見し、学び続けることができる。
6. 自身の境遇や文化等と異なる人たちとの交流に努め、それらの人たちと協働することができる。

学部等名 経済学部

教育研究上の目的 (公表方法：ホームページにより、公表している。

https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose)

(概要)

経済学部は、建学の精神に則り、日本と世界の経済・企業に関する実践的・理論的な知識とスキルの涵養を通じて、創造性あふれる経済社会とビジネスモデルの構築に寄与できる人材を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：ホームページにより、公表している。

<https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy>)

(概要)

経済学部は、日本経済が直面する国民的課題やビジネスの場で生起する問題の解決に取り組み、また、地域の経済社会の発展や観光ホスピタリティ産業および観光まちづくりの推進に寄与する人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 日本と世界の経済、地域経済、企業経営および観光にかかわる基礎的理論・知識を修得する。
2. 基礎的理論・知識を応用して日本と世界の経済、地域経済、企業経営、観光が直面する諸問題に取り組む能力を修得する。
3. 問題解決に取り組むために必要な行動力、主体性、教養、倫理観を修得する。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページにより、公表している。<https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy>)

(概要)

学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、経済学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 1 年次から 3 年次まで少人数教育の履修を通じて、プレゼンテーション能力、コミュニケーション力、問題解決能力を養う。
2. 学部共通の入門科目と必修度の高い学科ごとの選択必修科目の履修を通じて、日本と世界の経済、地域経済、企業経営、観光に関する基礎的な理論・知識を修得する。
3. 選択必修科目・選択科目の履修を通じて、日本と世界の経済、地域経済、企業経営、観光にかかわる問題解決能力を養う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 経済学部は、国際的視点から日本とアジアおよび世界の経済と企業に関する実践的・理論的な知識とスキルを学修することにより、今日の経済・企業が直面する複雑な諸問題の解決に貢献できる人材の育成を目指しています。 この教育目的を達成するため、高等学校等における学修や活動を通じて、次のような能力・素養・意欲を備えた入学者を求めています。 求める学生像 （知識・技能） 1. 経済と企業に関する学修に必要な基礎学力を有する。 2. 経済や社会に対する幅広い関心を持ち、継続的かつ意欲的に学修する態度を有する。 （思考力・判断力・表現力） 3. 経済や社会の諸問題についての理解力、思考力、コミュニケーション力等を有する。 （主体性・多様性・協働性） 4. さまざまな課題に意欲と責任感をもって取り組む積極性を有する。 5. 明確な目的意識を持ち、主体的に他者と協働して学ぶ意欲を有する。

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）
（概要） 法学部は、建学の精神に則り、教育指針である「実学」「国際性」「開放性」を通して、法律・政治についての基礎知識を修得すると共に、バランスのとれた判断力・論理的思考力や既存の学問領域の垣根に囚われない柔軟な発想力を有する人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 法学部は、法律・政治についての基礎知識を修得すると共に、バランスのとれた判断力・論理的思考力を有する人材を養成することを目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。 1. 法律学・政治学に関する基本的な知識を有し、現代社会における諸問題の論点を把握することができる。 2. 法律学・政治学に関する基本的な知識を応用し、自分なりの考え方を表現することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、法学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。 1. 文章力、論理的思考力やディスカッション能力を修得させるために、少人数編成からなる、「ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」、「基礎教養演習Ⅰ・Ⅱ」および「演習Ⅰ～Ⅳ」を必修とする。 2. 国際性や幅広い豊かな教養を身につける見地から、「英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」および「ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」を含め、共通教育科目として30単位の取得を必須とする。 3. 専門科目については、コース制を導入し、1年次生向けに必修科目を設けるほか、専門

選択必修科目群を置く。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 法学部は、法律・政治についての基礎知識を修得するとともに、バランスのとれた判断と論理的思考のできる人材の育成を目指しています。 この教育目的を達成するため、高等学校等における学修や活動を通じて、次のような能力・素養・意欲を備えた入学者を求めています。 求める学生像 （知識・技能） 1. 入学後における法律学・政治学の学修に必要な学力を有する。 （思考力・判断力・表現力） 2. 広い視野を持って、物事を多面的かつ論理的に考察・判断することができる。 3. 自分の考えを的確に表現し伝えることができる。 （主体性・多様性・協働性） 4. 社会に対する高い関心と勉学意欲を有する。 5. 自分とは異なる他者と関わり、積極的にコミュニケーションを図る意欲を有する。

学部等名 医学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）
（概要） 医学部は、建学の精神に則り、将来の医学・医療の様々な領域に共通して必要な専門的知識・技術を修得し、総合的視野と判断力および人間性を身につけて、医学および関連諸科学の進歩や社会情勢の変化に適応できる、よき医師を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 医学部は、医学・医療の発展に寄与するために最新の医学知識と技量を身につけ、多様な医療を提供できる、よき医師の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。 1. よき医師として、将来の医学・医療の様々な領域に共通して必要な専門的知識・技術および態度・習慣を修得し、生涯にわたる学修の素地を身につけることができる。 2. 自ら問題を的確にとらえて解決する能力と創造性を身につけ、医学および関連諸科学の進歩や社会情勢の変化に適応することができる。 3. 医療と自然科学のみならず、その背景にある精神的・社会的問題にも関係づけて考えることができるとともに総合的視野と判断力および人間性を身につけることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、医学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。 1. 共通教育科目では、教養、初年次、キャリア、情報、外国語の5つの教育科目区分に基づき、豊かな人間性、倫理観、コミュニケーションスキル、国際性ならびに医療人として必要な基礎的知識を修得できる科目を配置する。 2. 専門基礎科目は、専門的知識・技術を学ぶ上で必要な各領域の基礎医学に関する科目を配置するとともにチーム医療の理解を深めるためアーリー・エクスポージャー(早期臨床

体験)に関する科目を配置する。 ３．専門科目は、現代医療を担う一員として必要な臨床医学ならびに診断・検査・治療に関する科目を配置する。また、すべての医学知識や技術的な側面の理解を深め、医師としてあるべき態度を学ぶため各診療科の臨床実習を配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 医学部は、将来の医学・医療の様々な領域に共通して必要な専門的知識・技術を修得し、総合的視野と判断力および人間性を身につけて、医学および関連諸科学の進歩や社会情勢の変化に適応ができるよき医師の育成を目指しています。 この教育目的を達成するため、高等学校等における学習や活動を通じて、次のような能力・素養・意欲を備えた入学者を求めています。 求める学生像 （知識・技能） １．医学を学ぶ上で必要な基礎学力と学修意欲を有する。 ２．高い倫理観と奉仕の心に基づき、幅広い知識と国際的視野を身につけるために努力し続ける態度を有する。 （思考力・判断力・表現力） ３．情報化社会の中で、自立した学修態度と問題解決能力を有する。 ４．学修や経験を通じて自らの成長を望み、それを表現し社会に貢献する意思を有する。 （主体性・多様性・協働性） ５．明確な目的意識を持ち、協調性とコミュニケーション能力のもと、主体的に他者と協働して医学を学ぶ熱意・関心・意欲を有する。 入学前に身につけておくことが望ましい知識、技能、学習習慣 ・医学を学ぶ上で必要な基礎学力・知識・国際的視野と倫理観。 ・知識・技能を活用し自立した学修態度のもと、自ら課題を分析・考察・解決し、適切に表現する能力。 ・協調性を持ち、コミュニケーション能力のもとで相手を理解し共に学び成長する態度。

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）
（概要） 薬学部は、建学の精神に則り、高度の専門知識・技能と豊かな人間性を基盤とした実務実践力に加えて、研究心や課題発見・問題解決能力、自己研鑽能力があり、医療チームや地域社会において信頼される薬剤師として、広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 薬学部は、科学の進歩に伴う医療の高度化、少子高齢社会における地域医療連携と国民の健康維持・増進という観点から、社会や医療現場の期待に応え、地域住民や個々の患者のニーズに対応できる薬剤師の養成を目指している。卒業時の学修成果（アウトカム）として以下の修得目標に掲げる能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。 １．医療人として温かい人間性と高い倫理観を持ち、他者の尊厳や人権等に配慮して誠実

- に行動し、自己研鑽に努め、プロフェッショナルリズムに基づき行動できる。
2. コミュニケーション力により患者、患者の家族、医療チームのメンバー等と信頼関係を築き、連携して、患者中心の視点でチーム医療に参画できる。
 3. 医薬品の物理的・化学的特性を考慮し、法規・制度や社会環境等に配慮し、求められる医療に必要な医薬品の調製と取扱いを適正に行うことができる。
 4. 科学的根拠の下に医薬品等が生体に及ぼす影響を理解し、患者個人の背景を尊重した適切で効果的な薬物治療を実施できる。
 5. 地域における保健・医療・福祉の資源を把握・活用し、地域医療連携を通して、地域住民の健康維持・増進を支援できる。
 6. 基礎、臨床および社会薬学領域での研究の意義を理解し、医療における問題点を科学的・論理的に考え、薬学的視点から問題解決を推進する姿勢を示すことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。<https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy>）

（概要）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を修得させるために、薬学部では、学修成果（アウトカム）基盤型教育の考え方に基づいて、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基盤として、ディプロマ・ポリシーに掲げられた6つのアウトカムを身につけることを目指す。

2. 修得目標1-A（倫理観とプロフェッショナルリズム）は、多様な分野の教科において幅広く取り上げ、すべての学年を通して醸成する。できる限り実習、討議を加えた学修方法で実施し、求められる技能・態度に適した評価方法で評価する。

3. 修得目標1-B（チーム医療を通じた患者中心の医療への参画）は、豊かな人間性に基づく信頼関係を築き、コミュニケーション能力を高めることを目的としており、本学部の特徴として特に重視する。学年進行に伴った順次性あるらせん型のヒューマニティ・コミュニケーション教育カリキュラムを構築し、医学部・医療技術学部と合同で医療系学部横断型の多職種連携教育（IPE）を実施し、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価を行う。

4. 修得目標1-C（医薬品の適正な調製と取扱い）、修得目標1-D（薬物治療の実践）、修得目標1-E（国民の健康維持と地域医療への貢献）を中核とした薬学専門教育では、学年進行に伴った順次性あるらせん型カリキュラムを構築し、科学的根拠に基づいた薬剤師としての能力を効果的に醸成する。入学時から4年次後期に渡り、講義等で幅広い薬学専門知識を身につけ、実習や演習を通して知識の活用力や問題解決能力を醸成する。修得した知識は客観試験や論述試験で評価し、実習や演習の学修成果は、技能・態度に適した方法で評価する。また、4年次からは、統合型演習や臨床実務実習を中心に、より実践的な学修環境を提供し、知識の評価とパフォーマンス評価を行う。

5. 修得目標1-F（科学的探究心）は、1～3年次の基礎系薬学実習を基盤として、主に4～6年次の卒業実習（卒業研究）を通して醸成する。より深い科学的・論理的な思考力、課題発見・問題解決能力とともに、能動的に学ぶ姿勢や自己研鑽能力を涵養し、知識の評価とパフォーマンス評価を行う。

6. 卒業時に求められる総合的な学修成果については、知識は客観試験や論述試験で、薬剤師としての実務能力はポートフォリオ等で、卒業研究はルーブリックを用いたパフォーマンス評価でそれぞれ評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。

<https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy>）

（概要）

薬学部は、確かな知識・技術と豊かな人間性に基づく臨床能力を有し、薬物療法のプロフェッショナルとして社会から信頼される薬剤師人材の育成を目指しています。

この教育目的を達成するため、高等学校等における学修や活動を通じて、次のような能力・素養・意欲を備えた入学者を求めています。

求める学生像

(知識・技能)

1. 薬学に関する知識を修得する上で必要な基礎学力を有する。
2. 実習を含む6年間の薬学教育に適応できる。

(思考力・判断力・表現力)

3. 最新の知識・技能を修得する向学心を有する。
4. 課題発見・問題解決のための探求心と論理的思考力を有する。

(主体性・多様性・協働性)

5. 人々の健康と福祉に貢献するという高い志と強い意欲を有する。
6. 協調性があり、適切な語学力とコミュニケーション能力を有する。

入学前に身につけておくことが望ましい知識、技能、学習習慣

・薬学部で専門科目を学ぶために前提となる「化学」と「生物学」をはじめとする基礎学力。

・薬学部での学修は、資料や課題の読解力や理解力、思考力が必要となるため、幅広い読書等を通じて、入学までに様々な文章に触れるようにする。

・薬学部では、積み上げ型の学習が重要となるため、学んだ日のうちに復習を通じて理解し、生きた知識としてしっかり身につける学修能力を高めておく。

・他者の意見に耳を傾けることを心掛け、かつ自分の考えを相手に伝えられるよう積極的なコミュニケーションを図るようにする。

学部等名 理工学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。

https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose)

(概要)

理工学部は、建学の精神に則り、理学系分野、工学系分野にかかわる幅広い知識を身につけ、国際的視野に立って判断ができる人材の育成を目指す。各分野において、実験、実習に重点をおいた理論から実践に亘る実学教育により、創造力および人間味豊かな専門性を持った人材を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。

<https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy>)

(概要)

理工学部は、理学、工学の教育研究を基盤に、専門的知識と総合的視野をもち、社会の発展に寄与できる人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 人文科学、社会科学、自然科学を学び、さらに専門科目を通して幅広い知識を身につけ、応用課題に適応できる。
2. 多文化・異文化に関する知識を持ち、コミュニケーションスキルを活用して協働作業ができる。
3. 実学を通して獲得した能力を総合的に活用して、さまざまな課題に対応できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。<https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy>)

(概要)

学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、理工学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 生涯学び続ける力、国際的視野に立って判断できる力、そして技術者に必要な基礎的知識を身につけるために共通教育科目を設定する。
2. 理工系の技術者として必要な専門的知識と総合的視野を身につけるために専門科目を

設定する。
3. 実学を通して、さまざまな課題に対応できるように演習・実験・実習・卒業研究を設定する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 理工学部は、さまざまな問題が地球規模で複雑に絡み合った現代社会において、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指しています。 この教育目的を達成するため、高等学校等における学修や活動を通じて、次のような能力・素養・意欲を備えた入学者を求めています。 求める学生像 （知識・技能） 1. 志望する専門学科の学修や、新しい知識や概念の獲得に必要な基礎学力を有する。 （思考力・判断力・表現力） 2. 自分の考えを論理的に整理し、相手に伝える力を有する。 （主体性・多様性・協働性） 3. 何事にも興味を持つ好奇心、種々の課題にチャレンジする積極性を有する。 4. 理工学の専門分野を主体的に学ぼうとする強い意欲を持ち、他者と協働して学ぶ意欲を有する。

学部等名 医療技術学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）
（概要） 医療技術学部は、建学の精神に則り、現代医療を担う一員に必要な専門的知識・技能、および教養・倫理を修得し、社会に貢献できるよき人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 医療技術学部は、高い教養と倫理観を有し現代医療を担える専門技能職として社会に貢献できる人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。 1. 豊かな人間性・倫理観を有し、コミュニケーションスキルを活用して人間関係が形成できる。 2. 各学科が掲げる基本的医療知識を有し、その医療技術を実践することができる。 3. 医療の高度化と国際化、社会情勢の変化に関心を持ち、生涯学習の自覚を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、医療技術学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。 1. 共通教育科目では、教養、初年次、キャリア、情報、外国語の5つの教育科目区分に基づき、豊かな人間性、倫理観、コミュニケーションスキル、国際性ならびに医療人として必要な基礎的知識を修得できる科目を配置する。 2. 専門基礎分野は、各学科の基本的知識・技術を学ぶ上で必要な基礎医学などを身につけることを目的として各分野の医療系基礎科目を配置する。 3. 専門分野は、現代医療を担う一員として必要な専門的知識・技術を学ぶための科目を配

置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 医療技術学部は、現代のチーム医療に必須の専門医療に寄与するため、よき視能訓練士、看護職者、診療放射線技師、臨床検査技師、救急救命士、柔道整復師の育成とともに、健康社会の促進に貢献するため、優れたスポーツ指導者・教育者・競技者の育成を目指しています。 この教育目的を達成するため、高等学校等における学修や活動を通じて、次のような能力・素養・意欲を備えた入学者を求めています。 求める学生像 （知識・技能） 1. 実習を含む4年間の教育に適応できる。 2. 幅広い学修を通じて基礎学力を有する。 （思考力・判断力・表現力） 3. 人の命の大切さを理解できる。 4. 倫理の重要性を理解できる。 （主体性・多様性・協働性） 5. 医療やスポーツ・健康への強い意欲を有する。 6. 周囲との協調性を有する。

学部等名 福岡医療技術学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）
（概要） 福岡医療技術学部は、建学の精神に則り、高度医療を担う一員として必要な専門的知識・技能および教養・倫理を修得し、豊かな人間性と創造性を備え、地域医療に貢献できる医療技術者を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
（概要） 福岡医療技術学部は、高度医療を担う一員として必要な専門的知識・技能および豊かな人間性と創造性を備え、地域医療に貢献できる医療技術者の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。 1. 専門的医療技術者として必要な基礎的知識、技能の素地を身につけ、これを実際の医療現場等において効果的に実践することができる。 2. 「技術は心」という観点から、医療技術者として求められる人間尊重の倫理観と使命感を理解し、いたわりの心を持って接することができる。 3. 国際的視野での幅広い教養と豊かな人間性を備え、各地域でのチーム医療を担う一員として効果的な連携を図る態度を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）

(概要) 学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、福岡医療技術学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。 1. 共通教育科目では、医療技術者として必要な倫理観、コミュニケーション能力、国際性などの豊かな人間性を学修するための科目を配置する。 2. 専門基礎分野では、医療技術者として必要な専門的知識、技能を修得するため、その基盤となる基礎医学や臨床医学に関する科目を配置し、この上に専門分野科目を系統的に配置する。 3. 専門分野では、実践的スキルを養うため、演習や実習に加え、学外での臨床実習、臨地実習の科目を効果的に配置する。 4. 多様な学生の主体的な学習を促進するため、一般教養と専門分野の特色ある選択科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）
(概要) 福岡医療技術学部は、進歩する医療の専門性の高い知識と技術を学修し、継続して能力向上に努める人材の育成を目指しています。 この教育目的を達成するため、高等学校等における学修や活動を通じて、次のような能力・素養・意欲を備えた入学者を求めています。 求める学生像 (知識・技能) 1. 実習を含む4年間の教育に適応することができる。 2. 最先端医療技術の利活用に対しての意欲・関心を有する。 (思考力・判断力・表現力) 3. 物事の部分だけでなく、全体像（フレームワーク）から考えようとする意思を有する。 4. 問題点を発見し、自分の考えをまとめ、解決へと結びつける意思を有する。 (主体性・多様性・協働性) 5. 明確な目標を持ち、それに向けて主体的に努力を継続できる。 6. 偏見を持つことがなく、国際的な視野に立って相互理解ができる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにより、公表している。
https://www.teikyo-u.ac.jp/university/basic_info/administration

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数 (本務者)	
--------------	--

学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2 人	—					2 人
文学部	—	30 人	25 人	16 人	5 人	0 人	76 人
外国語学部	—	15 人	13 人	11 人	5 人	0 人	44 人
教育学部	—	21 人	17 人	12 人	2 人	0 人	52 人
経済学部	—	66 人	21 人	16 人	1 人	0 人	104 人
法学部	—	19 人	9 人	7 人	3 人	0 人	38 人
医学部	—	140 人	73 人	81 人	85 人	176 人	555 人
薬学部	—	28 人	20 人	24 人	19 人	2 人	93 人
理工学部	—	21 人	16 人	7 人	2 人	2 人	48 人
医療技術学部	—	46 人	26 人	38 人	30 人	11 人	151 人
福岡医療技術学部	—	24 人	15 人	22 人	18 人	4 人	83 人
理工学部 (通信教育課程)	—	5 人	2 人	人	人	人	7 人

b. 教員数 (兼務者)	
--------------	--

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
1 人	713 人	714 人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/search/index.html?lang=ja&template=template1
------------------------------	---

c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

[illegible]

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

[illegible]

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	710 人 (100%)	26 人 (3.7%)	606 人 (85.4%)	78 人 (11.0%)
外国語学部	335 人 (100%)	7 人 (2.1%)	286 人 (85.4%)	42 人 (12.5%)
教育学部	297 人 (100%)	8 人 (2.7%)	272 人 (91.6%)	17 人 (5.7%)
経済学部	1492 人 (100%)	36 人 (2.4%)	1282 人 (85.9%)	174 人 (11.7%)
法学部	414 人 (100%)	7 人 (1.7%)	374 人 (90.3%)	33 人 (8.0%)
医学部	115 人 (100%)	0 人 (0.0%)	109 人 (94.8%)	6 人 (5.2%)
薬学部	236 人 (100%)	2 人 (0.8%)	181 人 (76.7%)	53 人 (22.5%)
理工学部	231 人 (100%)	23 人 (10.0%)	185 人 (80.1%)	23 人 (10.0%)
医療技術学部	768 人 (100%)	14 人 (1.8%)	677 人 (88.2%)	77 人 (10.0%)
福岡医療技術学部	252 人 (100%)	7 人 (2.8%)	195 人 (77.4%)	50 人 (19.8%)
合計	4850 人 (100%)	130 人 (2.7%)	4167 人 (85.9%)	553 人 (11.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) ・授業計画書（シラバス）の作成過程 授業を担当する教員にはシラバス作成のガイドラインを配布しており、予めシラバス作成の手順について周知している。次年度の担当科目が決定次第、教員はガイドラインに従いシラバスの原稿を作成し、各学部の教務担当事務へ提出。記載内容について第3者のチェックを受け、必要に応じて加筆修正を行い、完成する。 ・主な記載内容 ① 授業の概要…授業の全体を把握できるようにするとともに、授業の趣旨、学びの方向性を記載する。学生が、学ぶ意識を理解し、学修への動機づけを高めることを目指す。 ② 授業の到達目標…当該科目が、学部等がディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果のうちのどの部分を担っているかに留意し、「〇〇できる」等の表現にて示す。また、到達度を成績評価に結びつけられるよう、観察可能な具体的内容を記載し、学生にわかり易いように一つの文章に対し一つの到達目標とする。 ③ 成績評価の方法および基準…単位認定の判断材料となるレポート課題、小テスト、試験等の評価の割合を%で明記する。出席点は含めない。評価にあたり、到達目標に掲げる能力の達成度を判定できる評価方法となっているかに留意する。また、評価基準は測定可能なものとし、採点根拠が明確となるようにする。なお、成績評価の基準は、全ての科目において同一にS・A・B・C・Dで表し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とするため、授業科目ごとのシラバスには掲載していない。 ④ 授業形態…講義、演習、実験、実習、実技の別を記載。複数の組み合わせの場合は、そのすべてを記載。 ⑤ 各回の授業内容（年間の授業の計画）…学生の予習等の参考となるように、各回の具体的な授業内容を記載する。 ⑥ 教科書・参考資料…授業で使用し、学生が購入することが必要なもののみ記載。 ⑦ 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間…学生の主体的な学修を促すため、予習・復習について具体的な内容とかかる時間を記載する。 ⑧ その他履修上の注意事項…学生が授業に臨む態度、学生の責任について記載。また、当該科目履修の前提となる科目や、今後履修すべき科目について記載。 ⑨ 実務経験のある教員による授業…担当教員が実務経験を有しており、担当授業科目が実務経験に関連する場合は、実務経験を基にどのような授業を行うかを記載。	
---	--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各授業科目の授業計画（シラバス）への記載等において、学生に対し予め周知された成績評価の方法（筆記試験、実技試験、レポート課題、小テスト等）および基準（S・A・B・Cは合格、Dは不合格）により、厳格かつ適正に学修成果を評価し、合格者に対し単位の授与を実施している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本文学科	124 単位	有・無	単位
	史学科	124 単位	有・無	単位
	社会学科	124 単位	有・無	単位
	心理学科	124 単位	有・無	単位
外国語学部	外国語学科	124 単位	有・無	単位
	国際日本学科	124 単位	有・無	単位

教育学部	教育文化学科	124 単位	有・無	単位
	初等教育学科	124 単位	有・無	単位
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	単位
	国際経済学科	124 単位	有・無	単位
	地域経済学科	124 単位	有・無	単位
	経営学科	124 単位	有・無	単位
	観光経営学科	124 単位	有・無	単位
法学部	法律学科	124 単位	有・無	単位
	政治学科	124 単位	有・無	単位
医学部	医学科	- 単位 ※医学部にあっては、メディアを利用した共通教育科目及び板橋キャンパス共通開講の共通教育科目 15 単位のみ単位制としている。その他の科目は、修得すべき単位に相当する授業時間の履修をもって代えており、必修科目を全科目修得し、かつ総合試験、卒業試験及び共用試験に合格しなければならない。	有・無	単位
薬学部	薬学科	192 単位	有・無	単位
理工学部	総合理工学科	124 単位	有・無	単位
	機械・精密システム工学科	124 単位	有・無	単位
	航空宇宙工学科	124 単位	有・無	単位
	情報電子工学科	124 単位	有・無	単位
	バイオサイエンス学科	124 単位	有・無	単位
	データサイエンス学科	124 単位	有・無	単位
医療技術学部	視能矯正学科	124 単位	有・無	単位
	看護学科	124 単位	有・無	単位
	診療放射線学科	124 単位	有・無	単位
	臨床検査学科	125 単位	有・無	単位
	スポーツ医療学科	124 単位	有・無	単位
	柔道整復学科	125 単位	有・無	単位
福岡医療技術学部	理学療法学科	128 単位	有・無	単位
	作業療法学科	128 単位	有・無	単位
	看護学科	124 単位	有・無	単位
	診療放射線学科	128 単位	有・無	単位
	医療技術学科 救急救命士コース	124 単位	有・無	単位
	医療技術学科 臨床工学コース	126 単位	有・無	単位

G P A の活用状況（任意記載事項）	公表方法：
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにより、公表している。

<https://www.teikyo-u.ac.jp/campus>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
医	医 1 年	3, 150, 000 円	1, 500, 000 円	4, 712, 000 円	
	医 2～6 年			2, 852, 000 円	
薬	薬 1 年	1, 470, 000 円	368, 000 円	665, 000 円	
	薬 2～6 年				
医療技術	視能矯正 1 年	1, 102, 000 円	263, 000 円	568, 000 円	
	看護 1 年	1, 158, 000 円		766, 000 円	
	診療放射線 1 年	1, 036, 000 円		656, 000 円	
	臨床検査 1 年	1, 102, 000 円		656, 000 円	
	スポーツ医療 健康スポーツ コース 1 年	992, 000 円		486, 000 円	
	スポーツ医療 救急救命士コ ース 1 年	992, 000 円		710, 000 円	
	スポーツ医療 トップアスリ ートコース 1 年	860, 000 円		338, 000 円	
	柔道整復 1 年	1, 102, 000 円		654, 000 円	
	視能矯正 2 年	1, 102, 000 円		568, 000 円	
	看護 2 年	1, 158, 000 円		766, 000 円	
	診療放射線 2 年	1, 036, 000 円		656, 000 円	
	臨床検査 2 年	1, 102, 000 円		656, 000 円	
	スポーツ医療 健康スポーツ コース 2 年	992, 000 円		486, 000 円	
	スポーツ医療 救急救命士コ ース 2 年	992, 000 円		710, 000 円	
	スポーツ医療 トップアスリ ートコース 2 年	860, 000 円		338, 000 円	

	柔道整復 2 年	1, 102, 000 円		654, 000 円	
	視能矯正 3・4 年	1, 050, 000 円		542, 000 円	
	看護 3・4 年	1, 103, 000 円		731, 000 円	
	診療放射線 3・4 年	987, 000 円		679, 000 円	
	臨床検査 3・4 年	1, 050, 000 円		626, 000 円	
	スポーツ医療健康スポーツコース 3・4 年	945, 000 円		464, 000 円	
	スポーツ医療救急救命士コース 3・4 年	945, 000 円		676, 000 円	
	スポーツ医療トップアスリートコース 3・4 年	819, 000 円		322, 000 円	
	柔道整復 3・4 年	1, 050, 000 円		623, 000 円	
外国語	外国語英語コース 1 年	860, 000 円	263, 000 円	274, 000 円	
	外国語英語コース 2 年	430, 000 円		143, 000 円	
	外国語英語コース 3・4 年	819, 000 円		261, 000 円	
	外国語ドイツ語コース 1 年	860, 000 円	263, 000 円	262, 000 円	
	外国語フランス語コース 1 年				
	外国語スペイン語コース 1 年				
	外国語中国語コース 1 年				
	外国語韓国語コース 1 年	430, 000 円		131, 000 円	
	外国語ドイツ語コース 2 年				
	外国語フランス語コース 2 年				
	外国語スペイン語コース 2 年				
	外国語中国語コース 2 年				
	外国語韓国語コース 2 年				
	外国語ドイツ	819, 000 円		250, 000 円	

	語コース 3・4 年				
	外国語フランス語コース 3・4 年				
	外国語スペイン語コース 3・4 年				
	外国語中国語コース 3・4 年				
	外国語コリア語コース 3・4 年				
	国際日本 1 年 日本人学生	860,000 円	263,000 円	262,000 円	
	国際日本 2 年 日本人学生	430,000 円		131,000 円	
	国際日本 3・4 年 日本人学生	819,000 円		250,000 円	
	国際日本 1 年 留学生	860,000 円	263,000 円	262,000 円	
	国際日本 2 年 留学生	860,000 円		262,000 円	
国際日本 3・4 年 留学生	819,000 円		250,000 円		
教育	教育文化 1 年	860,000 円	263,000 円	262,000 円	
	初等教育 初等教育コース 1 年			284,000 円	
	初等教育 こども教育コース 1 年			306,000 円	
	教育文化 2 年	860,000 円		262,000 円	
	初等教育 初等教育コース 2 年			284,000 円	
	初等教育 こども教育コース 2 年			306,000 円	
	教育文化 3・4 年	819,000 円		250,000 円	
	初等教育 初等教育コース 3・4 年			271,000 円	
	初等教育 こども教育コース 3・4 年 年			292,000 円	
経済	経済 1 年	860,000 円	263,000 円	262,000 円	
	経営 1 年				
	観光経営 1 年				
	国際経済 1 年			279,000 円	

	経済 2 年	860, 000 円		262, 000 円		
	経営 2 年					
	観光経営 2 年					
	国際経済 2 年					
	経済 3・4 年	819, 000 円		250, 000 円		
	経営 3・4 年					
	観光経営 3・4 年					
	国際経済 3・4 年					
	地域経済 1 年	816, 000 円	263, 000 円	206, 000 円		
	地域経済 2 年	816, 000 円		206, 000 円		
地域経済 3・4 年	777, 000 円		197, 000 円			
福岡医療技術	理学療法 1 年	945, 000 円	263, 000 円	344, 000 円		
	作業療法 1 年					
	看護 1 年					
	診療放射 1 年					
	医療技術 救急救命士コース 1 年					
	医療技術 臨床工学コース 1 年					
	理学療法 2～4 年	945, 000 円		494, 000 円		
	作業療法 2～4 年					
	看護 2～4 年					
	診療放射 2～4 年					
医療技術 救急救命士コース 2～4 年						
医療技術 臨床工学コース 2～4 年						
文	日本文化 1 年	860, 000 円	263, 000 円	262, 000 円		
	史 1 年					
	社会 1 年					
	日本文化 2 年	860, 000 円		262, 000 円		
	史 2 年					
	社会 2 年					
	日本文化 3・4 年	819, 000 円		250, 000 円		
	史 3・4 年					
	社会 3・4 年					
	心理 1 年	860, 000 円	263, 000 円	284, 000 円		
	心理 2 年	860, 000 円		284, 000 円		
	心理 3・4 年	819, 000 円		271, 000 円		

法	法律 1 年	860,000 円	263,000 円	262,000 円	
	政治 1 年				
	法律 2 年	860,000 円		262,000 円	
	政治 2 年				
	法律 3・4 年	819,000 円		250,000 円	
	政治 3・4 年				
理工	総合理工 1 年	1,004,000 円	263,000 円	454,000 円	
	データサイエ ンス 1 年			492,000 円	
	総合理工 2 年	1,004,000 円		454,000 円	
	データサイエ ンス 2 年			492,000 円	
	機械・精密シ ステム工 3・ 4 年	956,000 円		432,000 円	
	航空宇宙工 3・4 年				
	情報電子工 3・4 年				
	バイオサイエ ンス 3・4 年			7,231,000 円	
	航空宇宙工ヘ リパイロット コース 3 年				
	航空宇宙工ヘ リパイロット コース 4 年				
	情報科（通信 課程）1 年	162,000 円	30,600 円		
	情報科（通信 課程）2 年	162,000 円			
	情報科（通信 課程）3・4 年	154,020 円			

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 教育および学修支援のための主なソフトウェアとして、LMS(Learning Management System)が導入されており、授業資料の配付や課題提出等を通じて、双方向的な学びを支援している。あわせて、「学修ポートフォリオ」を全学導入し、学生の学修成果の記録および可視化を可能としている。さらに、履修登録や成績確認等に対応する「CampusSquare」を統合教務システムとして全学稼働し、そのデータ整備に基づき構築された「T-day」を学生ポータルとしてリリースするなど、学修支援の質的向上を目的として、全学的なソフトウェア環境を整備している。 また、ラーニングコモンズとして板橋キャンパスに「学生支援室」、八王子キャンパスに「ACT」と称した4つの施設、宇都宮キャンパスに「グループ学習室」「View Hall（ビューホール）」を整備し、学修段階に応じた多様なツールやグループワークに適した空間を備え、情報の収集から編集・発信までの自律的学修過程を支援している。 さらに、全学的にオフィスアワー制度や担任制度を設けており、学生は教員へ直接学修に関する質問や相談を行うことができ、教員は担当学生の学修状況を詳細に把握し、きめ細やかな指導を実現している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

各キャンパスに学生課等のキャリア支援担当事務組織があり、各組織が中心となり、一人ひとりのニーズに合った個別相談対応やキャリア支援イベントの企画・運営、キャリア教育科目の管理等を行うなど、支援に取り組んでいる。また、キャリア支援の検討を行う会議体として、各キャンパスに就職委員会等が設けられている。委員会は各学科から選出した教員およびキャリア支援組織の事務職員等で構成されており、教職協働で就職支援や指導内容の検討等を行うほか、就職に関する情報の収集・提供が行われており、学生が適切な進路選択を行えるよう支援体制の充実を図っている。

また、教育課程外におけるキャリア教育については、段階を踏んだキャリア形成支援を行うため、年次別と年次共通の講座またはガイダンスを実施している。まず、低学年次向けには、職業意識を醸成することを目的とし、社会人基礎力やビジネスマナーを学べる講座等を中心に実施している。また、中高学年次向けには就職ガイダンスやインターンシップ講座等を展開し、企業または病院説明会を開催することで、学生と企業との交流の場を提供している。さらに、年次共通として筆記試験または小論文対策の講座を行うほか、キャンパスの特色によって、教職希望者、公務員希望者、外国人留学生、障がい学生等の配慮の必要な学生対象の講座やガイダンスを行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

各キャンパスに医務室および心身に関する相談対応窓口（以下、「医務室等」という。）を設置し、大学ホームページや学生便覧等に掲載することで周知に努めている。医務室等では、身体の不調や悩みについての健康相談および学内での怪我や体調不良時の応急処置等を行っており、必要に応じて外部医療機関と連携をとり対応している。健康相談は対面のほかメールや電話等での問い合わせにも対応することで多様な学生からの相談に応じる体制を整えており、相談内容を誰に共有してよいか学生の意思を確認するなど、プライバシーに配慮した対応を行っている。

また、心的支援として、各キャンパスの医務室等に常勤もしくは非常勤の医師、看護師、公認心理師または臨床心理士等の専門資格を持つスタッフを配置しており、学生が心の健康を保って有意義な学生生活を過ごすことができるよう、あらゆる相談に応じる体制を整えている。

さらに、全学生に対して定期健康診断を年1回実施し、診断結果をもとに助言や医療機関の紹介を行うことで、疾病の早期発見と予防に努め、より有意義な学生生活を送れるよう支援している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページにより、公表している。

<https://www.teikyo-u.ac.jp/disclosure>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み

① 全学部配置されている「教養教育科目」においては、人文科学系分野、社会科学系分野、自然科学系分野、文理融合分野の4つの分野を設けており、学生が文理複眼的な視野を修得することを目的に、人文・社会科学系分野と自然科学系分野の両分野を必ず学ぶよう、分野ごとに卒業要件を設定しており、入学後の文理横断教育を整備している。

また、文理融合分野に配置された「イノベーションをはじめよう」「価値デザイン入門」「グローバルに広がる社会とわたし」の3科目は、オンデマンド形式での開講とし、キャンパスを問わず、全学部の学生が受講可能な科目となっている。

② 全学的なデータサイエンス教育推進のため、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を受けたプログラムを全学部で開講し、一部の学部学科では必修科目として開講している。選択科目として開講している学部学科についても、希望するすべての学生が受講できる体制を整えており、プログラムを修了した学生には修了証としてオープンバッジを授与するなど、大学全体として積極的な履修を促している。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F113310103769
学校名（〇〇大学 等）	帝京大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 帝京大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		3919人（2480）人	3868人（2431）人	4127人（2617）人
内 訳	第Ⅰ区分	1040人	968人	
	（うち多子世帯）	（ 218人）	（ 171人）	
	第Ⅱ区分	424人	444人	
	（うち多子世帯）	（ 70人）	（ 64人）	
	第Ⅲ区分	303人	283人	
	（うち多子世帯）	（ 72人）	（ 57人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	32人	34人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	385人	356人	
	区分外（多子世帯）	1736人	1783人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－ 人（ 0）人
合計（年間）				4133人（2617）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	82人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	63人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	21人	人	人
計	166人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	— 人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	— 人
年間計	— 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	43人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	24人	人	人
GPA等が下位4分の1	352人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	366人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。